

(仮称)鎌倉地域の漁港にかかるワークショップ

第4回ワークショップ会議録

日 時：平成23年11月20日（日） 10：00～12：00

場 所：鎌倉市役所 811 会議室

参加者：公募市民：12名 関係団体：11名 計：23名 傍聴者：29名

ファシリテータ：齋藤 潮氏

（東京工業大学大学院社会理工学研究科教授）

ファシリテータ補佐：橋本政子氏

（東京工業大学大学院社会理工学研究科齋藤研究室）

事務局：鎌倉市市民経済部産業振興課

花上課長、加藤課長補佐、根本事務職員

（財）漁港漁場漁村技術研究所

大塚職員、田島職員

東京工業大学大学院社会理工学研究科 齋藤潮研究室院生 5名

プログラム

第1部

- ①第3回ワークショップで出された意見
- ②本日の討議（グループワーク）について

第2部

- ③グループワーク
- ④グループ発表
- ⑤意見交換

終わりに

- ⑥次回の開催予定

配布資料

第4回ワークショップ 次 第

資料－1：第3回ワークショップでのグループワーク意見

資料－2：これまでのワークショップで出された6つの論点

資料－3：第3回WSでのアンケート調査結果

補足資料：ワークショップの進め方についてのアンケート用紙

第1部

① 第3回ワークショップで出された意見

第3回ワークショップで出された意見について、事務局の産業振興課加藤課長補佐から配布資料の「資料-1：第3回ワークショップでのグループワーク意見」により説明を行いました。

② 本日の討議（グループワーク）について

F T：ファシリテータ（以下「F T」という。）の齋藤です。今日どのような議論をしていただくか、基本的には前回からの継続、まだ議論しきれなかったことがたくさんおありのようなので、それを継続していただくことと、メンバーを交代してお互い気づけなかった観点について発見していただく。ただ、そろそろ今後どうするかということも考えなければいけません。それについても視野に入れながらお話しいただければと思います。今、様々な論点のうち、前回から「(4) 漁業の現場からみた漁港建設の必要性について」「(5) 漁港建設のデメリットの有無について明確化し、検討してもらいたい」「(6) 漁港建設が鎌倉市民、沿岸域住民にもたらしうるメリットについて」について議論の焦点が移ってきた。(4)と(5)は非常に重要な論点で、これについて今までは賛成だった人、反対だった人、何故意見が違うのかについて情報交換して、議論していただく。これは相手の方を変えて議論していただくともう少し客観的な立場でものをおっしゃることが出てくるかも知れません。それから前回確認事項を事務局側から出した時に、内容が適切じゃないんじゃないか、という意見もあった。確認事項はまだ確認できる状況にない、ということで確認事項はまだ保留にして早く本筋議論を進めたほうが良い、という発言もあったので事務局としては用意しているようですが、私からは今回は配布を控えたほうが良いのではないかと、言った。そのかわり、いずれ次の話に関心に移していかなければいけないですが、全体を振り返った上でこのワークショップ（以下「WS」という。）のまとめ方について、議論あるいはその方向性をまとめていただきたいと思います。今日のところはこの話題ではありませんが、いずれこの議論をしなければいけないということをお考えいただきたい。これは事務局とも相談していない私の勝手なイメージです。これについて少なくとも次回、もしくは予備の回にまとめ方の方向について、骨子を提出する、それについてご意見をいただく。それを受けて実際に編集作業に入るには時間が必要なので、6回目までにやれ、と言われてもできないかも知れないし、6回目までに意見がまとまるかどうか分からないので、ともかく今年度中にこの作業をして、作業結果を皆さんに案として提出する。要望が多ければ臨時の会合を開いてでも意見交換をしてはどうかと、こう考えています。事務局も都合があるだろうし、皆さんもお忙しいでしょうから、会合を開いてやるべきか、どうかについてはまた議論の余地があります。それを

踏まえて再編集作業を行い、再度皆さんに「こういう形で良いか」ということを確認し、概ね良かろう、ということであれば市長にこれを提出します。こういう段取りでどうかと思っています。その際に、前々からWSの回数が少ない、期間が短い、というご意見も伺ったので、市長に次年度もWSの継続を申し入れることも報告書の中に挿入しても私は良かろうと考えていますので、その辺も第5回、第6回辺りに議論していただければと思います。現段階ですが、それぞれ賛成・反対意見をお持ちだったと思いますが、その意見の開陳だけではなく、その理由についてお互い少しずつ情報交換が始まっていると、皆さん方の発言の記録を拝見してそのように私は感じました。ただ、まだよくわからないという方もいるので、今日はそのことも含めて議論を続けていただきたい。グループによってはその先の議論も始まっていて、報告書をどうまとめたらいいか、につながりそうな議論も出ているので、私としてはそれをまだまだ発展することを期待しています。報告書は「こういう意見がありました」というような、情報の羅列にならないようにしたいです。漁港ができる場合とできない場合とで、どういうフォローが必要か、具体的に提案するような内容であれば良いのではないかと私は思っています。しかし、これも皆さんの考えを踏まえていかなければいけません。それから、グループワーク（以下「GW」という。）に時間が割けないのは困る、という意見も大変多かったもので、できるだけ多くの時間をGWに割けるようにご協力いただきたい。GW以前の問題として意見をお持ちの方がいましたら、そのままグループの中で議論していただいても良いし、文章として出していただいて、その回答をこちらで用意する。もしくは、それが非常に重要な問題であれば、第5回WSも少し時間を取って、議論をするということもあり得ます。ただ、その意見に皆さん全員が関心をお持ちかどうか分からない、早くGWを続けたい、ということもあるので、ぜひともお願いしたい。GWの中でたくさん意見をお持ちで、聴いてほしいという想いがあるため色々と発言される方がいるが、まったく発言されない方もいます。ぜひ全体を見渡し、ずっと黙っている方がいたら、意見が出てくるようにぜひともご協力いただきたい。

前回、傍聴者のGWの結果を発表していただいた。これについて、傍聴者として発表するのはおかしいんじゃないかという意見があった。もし発表してもらうのであれば、メンバーに入ってもらいたい、そういう意見もあった。建前論としてはまったくそのとおりだが、前回は短い時間での発表でもあったし、色々な意見が含まれている可能性もあるので、私としてはその発表も是としましたが、今後はぜひとも皆さんに聴いてほしいという場合には、皆さんの了承を得てから発表していただく、ということにします。それでは第2部に入りますが、皆さんこの段階で質問はありますか。

参加者：行政に伺いたい。鎌倉市の長期10か年計画の中で、前半5年が終わって、11

月から12月にかけて、前半のチェックをやってきて、後半6年目、7年目をどうするかという計画の修正をやっていていると思います。ということは11月、12月の結果で来年度の予算に影響すると聞いている。今の漁港の検討することの位置づけは、その計画に対してどういう状況なのでしょう。

事務局：今問われたのは総合計画の中期実施計画ですが、それが今年度で終わるので、現在平成24年から平成27年の後期実施計画の調整を行っています。12月議会でその内容について公表される予定ですが、事務局としては、このWSがどういう状況になるか見えてきません。先ほどF Tからも話がありましたが、基本構想をまとめるまではもう少し時間がかかるのではないかと考えています。事務局としては平成24年度は構想計画策定に向けた予算確保について調整をしています。

参加者：先ほどF Tが個人の意見とお話していましたが、引き続きWSを継続せざるを得ないと、私は拝見していて感じたので行政にお尋ねしました。

第2部

③ グループワーク

参加者5グループ、傍聴者2グループでGWを行いました。

④ グループ発表

各グループが発表を行いました。

⑤ 意見交換

F T：漁港を建設する以前に考えて行くことが色々あります。これはWSからの報告書として仮に異論があるとすると、前段に書きこまなければいけないところですが、今日その議論がかなりたくさん出たので、我々としてもちゃんと整理しなければいけません。その他に造るのだったらこうしてほしいなど市民が歓迎できるのか、という話もありました。短い時間の中でまるめこまれてしまった点もあるかもしれないが、皆さんの話を聞いて、一言問題提起したい、こういう考えはどうか、あるいは次回こういうことで議論したい、などあれば伺いたいがいかがでしょうか。

私が発表を伺って非常に面白かったのは、あるグループは「ビジネス」という漁港を考えた時にそれをバックアップするために漁港を造るという考えにはついていけない。しかし、安全な就労のために必要であるならば、わからなくもない。つまり、皆ビジネスに生きているわけですが、それを支援するために、というのはどうかと思う人がいましたが、安全のためだったら仕方がない、こういう意見がありました。それから、市民への還元イメージが掴めない、という意見がありました。その中で様々な還元イメージ、お金で還元する以外に様々な還元があり得るだろうということでした。漁業を進めていく上で資源

保護をやる、海洋・海岸環境を保存する、ということと漁業を一緒にやっていくことも、鎌倉の環境やイメージを良くするためになるのではないかと、そういう観点と漁業が組んでいけば良いのではないかと、そういう意見もありました。かなり広範な、可能性なり考えを皆さんが提示されています。そういう意味で議論していきたいところですが、皆さんいかがでしょうか。

参加者：さっき発表したグループですが、言い忘れたことがあったので。たぶん行政の仕事ではないかと思いますが、ストーリーがほしいのです。いきなり漁港を造るということではなく、何を目指してやりたいのか。その中の一つに漁港が上ってくる。ではそれに必要な漁港はどういう形なのか、そういったストーリーがほしいのです。今このテーブルで話をしていたのは、一つの鎌倉という閉じたまちの中に、ショップなどがあり、そこで鎌倉の野菜や魚などを市民の人が買いに来る。これはどこで採ったのか、誰が獲ったのか、そういうことができるようなまちを目指すのであれば、それにはどういうものが必要で、どういうことが必要であるのか。その中に漁港があって、その漁港はどういう規模のものを、どこに造るのか、というようなストーリーがあれば、非常に皆が考えやすいと思います。今回のようにいきなりA案、B案、C案みたいにドンと出されると、何のための漁港か、誰のために造るのか、ピンポイントな議論になってしまいます。なので、そういうストーリーのようなものを行政で作ってもらえると、今出てきたような話が最初からできたのではないのでしょうか。

参加者：どこのチームの話聞いても、大体イメージするのは「必要性はあるが、やっぱり問題もある」という意見の中で皆さん前向きに、色々な代替案も含めて考えていると思います。ぜひ一つお願いをしたいと思っているのは、直感的には一つ一つの案は難しいかも知れません。その場合、何が難しく、何が可能性のあるのか、あるいは距離が遠くても可能性のあるのか、あるとすればどうすれば良いのか、というのがないと、わーっと意見は出るが、何となくやむやみに駄目だと終わるのは、しっくりこないのです。短い時間ではあるが、駄目ならどうして駄目で、遠くてもやり方があるのかどうか、そういうことに今度議論できないものでしょうか。先ほどこのグループの中で難しいと言いながら、市民の力を集結すればできるのではないかと議論もしていました。確かに難しいかもしれない、ではどうすれば良いか、どれが必要だったらどういう運動をすればできるのか、というまた別の考えができると思います。だから無理な理由、難しい理由はぜひ教えてほしいし、道がまったく閉ざされているのか、方法はあるのか、公園指定を外すことは無理なのか、無理じゃないのか、そういうことをぜひ教えてほしいと思いました。

F T：今の話は、既存の漁港とはこういうものだ、普通のイメージはこうだというのがあり、そのとおりにできないと漁港ではないじゃないか、という考えが支配しているとすれば、それを一旦止めて、もっと自由な発想で新しい漁港を造っていけないだろうか、ということを含む話です。ずっとそのグループ

で出ていた話でした。

参加者：今出たF Tの意見に少しリンクしますが、具体的な話としては汚い、あるいは危険、ということで港があるに越したことはありませんが、現実問題として造るお金が回せない、となるとできません。ではそれで議論を止めてしまうのではなく、汚いということと、慣習的に漁民の皆さんが何代も同じことを繰り返してきて何が悪いか、という気持ちがあるかもしれませんが、由比ガ浜というのは公共の皆の所有物です。漁民の皆さんだけが使うものでもないし、観光客も我々一般の市民も皆が共有して大事にしていくものだと思います。そういう意味からすると、港とは直接関係ないが、鎌倉の浜をどういう形で維持し、守っていくのが正しいのか、その中に港の問題が入っても良いですが、そもそも鎌倉は優先順位としてこの海岸線をどうしていきたいのか、ということのある程度ははっきりさせないと、議論がぐるぐる回ってしまうような気がしますし、市としてどんな考えを持っているのか、もう少し具体的に話していただきたい。

F T：残念ながら時間ですので、意見交換も不十分ですがここで終了します。もう一つ尋ねたいが、市としては第6回を予備日としているわけですが、そろそろそれを使うか使わないか、皆さんに言っていただかなければなりません。年明け早々で皆さんお忙しいとは思いますが、1月14日に第6回を開催すべきかどうか、いかがでしょうか。第5回だと年内に終わりますが、やるべきですか。(賛同の拍手)。では第6回予備日を使って準備をします。

参加者：冒頭に第6回WS以降も臨時でもWSが必要じゃないかとおっしゃったが、やるならいつ、というスケジュールを具体的に決めないまでも、考えたほうが良いのではないのでしょうか。(F T:次回までに。)直前に言われても困るので。

終わりに

事務局から次回開催予定、閉会挨拶を行いました。